

# 26日さらに話合い

水俣病 新認定患者とチツソ

している。

水俣病新認定患者の水俣市月浦、看護人川本輝夫さん(四〇)ら十八人(熊本十六人、鹿児島二人)は一日の第三回補償交渉が物わかれに終わったあと、チツソ正門前ですわり込みを続けているが、二十二日チツソ水俣支社に補償交渉の再開を申し入れた結果、二十六日午前十一時から水俣支社で第四回の話し合いが持たれることになった。

これまでの三回の話し合いでは、チツソが認定の内容がわからないという理由で、中央公害審査委員会での補償解決を提案したのに対し、患者側は一人三千万円の要求をして、話し合いは暗礁に乗りあげたままになっている。この間、島田チツソ社長が水俣市を訪れ「補償の前渡し金として十万円出すからすわり込みを解いてくれ」と提案したが、患者側は拒否